

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		<講義内容> ・研修課程の講習内容、構成 10 科目相互の関連性の理解 ・介護保険導入の背景と制度の基本について ・介護保険サービス（居宅・施設）の理解 ・介護保険外サービスの理解
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> ・居宅、施設におけるそれぞれの仕事内容の理解 ・現場経験者講師からの実際のサービス提供現場における体験談等 ・サービス提供の開始から、実際にサービスが提供されるまでを時系列的に説明し、また、チームケアの重要性の理解、様々な社会資源活用の理解 ・グループワーク（DVD 観賞後のディスカッション） 実際のサービス提供現場の DVD
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD)、DVD プレイヤー、テレビ
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	5	1	4	<講義内容> ・自立支援による高齢者の尊厳保持が介護保険制度の目的であることの説明。 ・人権と尊厳の保持 個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護 ・ICF 介護分野におけるICF ・QOL QOLの考え方とICF、生活の質 ・ノーマライゼーション 福祉理念であるノーマライゼーションの定義と、バリアフリー、ユニバーサルデザインの関連性の理解。 ・虐待防止・身体拘束禁止 身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援 ・個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業
② 自立に向けた介護	2	1	1	<講義内容> ・個人の尊厳、権利擁護を基盤とした自立した生き方とQOLの確保の重要性 ・自立支援と介護予防の考え方 ・自立支援 自立・自律支援、残存能力の活用、動機の欲求、意欲を高める支援、個別性/個別ケア、重度化防止 ・介護予防 介護予防の考え方
③ 人権啓発に関わる基礎知識	2	2		<講義内容> ・人権とは ・人権擁護への取り組み ・身近にある人権について
(合計時間数)	9	4	5	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。
使用する機器・備品等	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解できる。 ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<講義内容> ・介護環境の特徴の理解 訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性の理解 ・介護の専門性 重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種から成るチームの理解 ・介護に関する職種 異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担の理解
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<講義内容> ・介護サービスの公共性と職業倫理の理解 専門職の倫理の意義、介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) の理解 ・利用者、家族に対する関わり方についての理解 ・社会に対する責任の理解。介護専門職と倫理規定の内容把握 介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重の理解
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<講義内容> ・介護における安全の確保 事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザードの理解 ・事故予防、安全対策 リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町への報告等)、情報の共有の理解 ・感染対策 感染の原因と経路 (感染源の排除、感染経路の遮断)、「感染」に対する正しい知識の理解
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<講義内容> ・介護サービスを提供していくうえで必要な安全確保の視点 ・介護事故を予防するために必要な要因、原因のポイント ・事故を予防するためのリスクマネジメントの考え方と、リスクの分析方法や視点の理解 ・事故発生時の対応と報告の仕方、情報共有の重要性 ・感染症の理解と感染予防の基礎知識 ・介護職の心身の健康管理 介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策の理解
(合計時間数)	6	3	3	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点についてポイントを列挙できる。 ・生活支援の場では典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。
使用する機器・備品等	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	①介護保険制度、障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解ができる。 ②利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度の目的・サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、理解ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	0.5	2.5	<講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括 支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進 ・仕組みの基礎的理解 保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、 要介護認定の手順 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 財政負担、指定介護サービス事業者の指定
② 医療との連携と リハビリテーション	3	0.5	2.5	<講義内容> ・介護職が実施できない医療行為と実施できる非医療行為の理解 ・介護職の医行為の問題点と今後の課題について ・医療、看護職とのチームケアの必要性の理解 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念、目的及び高齢者のリハビリテーション、地域リハビリテーションについて ・事例を通して、脳卒中モデルの急性期、回復期、維持期のリハビリテーションの流れの理解
③ 障がい者総合支援制度 およびその他制度	3	0.5	2.5	<講義内容> ・障害者の自立と社会参加の意義と役割について ・我が国の障害者福祉制度の歴史と障害者福祉制度の理念について理解 障害の概念、ICF (国際生活機能分類) ・障害者総合支援制度の仕組みと基礎的理解 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ・個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業 ・日常生活自立支援事業 ・障害者虐待防止法
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 介護保険制度や障害者総合支援制度の概念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。
使用する機器・備品等	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称：学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護における コミュニケーション	3	1.5	1.5	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護サービスにおけるコミュニケーションの目的と意義、役割 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答の理解 基本的なコミュニケーション技法の理解と自己覚知、及び言葉遣いについての理解 言語、非言語、質問技法、要約、明確化、SOLER 利用者、家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いについて 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と、介護における相談援助技術の重要性についての理解 様々な障害に応じたコミュニケーション技術の実際 視力障害、聴力障害、構音障害、失語症、認知症の方に応じたコミュニケーション技術と留意点 <p><DVD 介護スタッフの接遇マニュアル 日本経済新聞出版社制作・著作></p>
② 介護におけるチームの コミュニケーション	3	1.5	1.5	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> チーム（多職種間）におけるコミュニケーションの有効性と重要性についての理解 記録における情報の共有化について 介護実践においての記録の重要性、記録の意義と目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、観察と情報収集の重要性理解、会議の必要性、介護に関する記録の種類、ケース記録、個別援助計画（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、ヒヤリハット報告書、相談・報告・連絡の重要性、5W1Hについて コミュニケーションを促す環境づくり 会議、情報共有の場、役割の認識の場（利用者とは頻りに接触する介護者に求められる観察眼）、ケアカンファレンスの重要性 アドボガシーの理解と必要性の理解 <p><DVD 介護スタッフの接遇マニュアル 日本経済新聞出版社制作・著作></p>
(合計時間数)	6	3	3	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 共感、受容、傾聴の態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 言動、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。
使用する機器・備品等	視聴覚教材（DVD）「介護スタッフの接遇マニュアル」 日本経済新聞出版社制作・著作 DVDプレーヤー、テレビ

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	2	1	<講義内容> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について 防衛反応(反射)の変化、喪失体験 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について 身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、 筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の 変化と日常生活への影響について
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容> ・高齢者の疾病と生活上の留意点について 骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について 循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、循環器障害の 危険因子と対策、老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を 背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、 誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気付く視点、高齢者は感染 症にかかりやすい
(合計時間数)	6	3.5	2.5	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢・高齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。
使用する機器・備品等	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	1	0.5	<講義内容> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアについて ・「できること」に着目したケア、その人らしさを生かすケアの形としてのパーソン・センタード・ケアの考え方
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2	1	<講義内容> ・認知症の概念、認知症の定義、診断基準等認知症の基礎知識 ・認知症の種類と原因について (アルツハイマー型認知症・血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症・その他の認知症) ・中核症状と行動、心理症状(BPSD)の違いについて もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、治療について ・認知症の薬物療法について
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2	1	<講義内容> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・行動、心理症状(BPSD)が誘発される介護職の不適切なケアと適切なケアとは ・認知症の中核症状による影響を踏まえた生活支援の具体的な対応 ・認知症の利用者への対応 本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケア
④ 家族への支援	1	1	0.5	<講義内容> ・認知症高齢者を介護する家族介護者の負担感やその要因の理解と、家族介護と専門的ケアの違いについて ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて ・認知症をもつ当事者や家族介護者とコミュニケーションを深め、その願いや介護職へ期待されていることとは ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイトケア) <DVD 「ハルさんの物語～ある高齢者と家族～」 社団法人日本介護福祉会>
(合計時間数)	6	3	3	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。 ・認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。
使用する機器・備品等	視覚教材(DVD) <DVD 「ハルさんの物語～ある高齢者と家族～」 社団法人日本介護福祉会> DVDプレーヤー、テレビ

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解させ、介護における基本的な考え方について理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・障害の概念と ICF の考え方 ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方 ・障害者福祉の基本理念 障害の受容プロセスについての理解、ノーマライゼーションの概念
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	<講義内容> ・身体障害 視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害 ・知的障害 知的障害 ・精神障害 (高次脳機能障害・発達障害を含む) 統合失調症・気分 (感情障害)・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 ・その他の心理の機能障害
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・家族への支援 障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減 家族の心理の一般的過程、家族の負担とその要因、家族支援について 視聴覚教材 (DVD) 「障がい者と家族関係の理解」
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。
使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD) 「障害者と家族関係の理解」、DVD プレーヤー、テレビ

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45
商号又は名称：学校法人 誠優学園

科目番号・科目名		(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供 方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等の生活を支える介護技術や知識を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)	
① 介護の基本的な考え方	4	3	1	<講義内容> ・倫理に基づく介護 I C F の視点に基づく生活支援、我流介護の排除 ・法的根拠に基づく介護	
② 介護に関するこころの 仕組みの基礎的理解	4	3	1	<講義内容> ・学習と記憶の基礎知識について ・感情と意欲の基礎知識について ・自己概念と生きがいについて ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について ・こころの持ち方が行動に与える影響について ・からだの状態がこころに与える影響について	
③ 介護に関するからだの 仕組みの基礎的理解	4	3	1	<講義内容> ・人体各部の名称と働きについて ・運動動作に関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの活用について ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点について ・バイタルチェック（脈拍、血圧、体温、呼吸）の意義と観察ポイントについて	
④ 生活と家事	6	3	3	<講義内容> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について ・生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す多様な生活習慣、 価値観について <演習内容> ・簡単な裁縫の実施と指編み	
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6	3	3	<講義内容> ・住居の役割と機能を理解し、高齢者や障害者にとって快適な居住整備について 考える ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの理解 ・住宅改修や福祉用具の基礎知識 <演習内容> 「高齢者や障害者が快適な居住環境を考えてみよう」 実際に簡単な平面図の作成をグループで行い、発表を行う	
⑥ 整容に関するこころと からだのしくみと自立 に向けた介護	5	5		<講義内容> ・日常生活の中での整容の意味について ・整容の支援技術（清拭、目・鼻・耳・爪の清潔、体調確認等、身じたく、衣類 着脱のポイント） ・口腔ケアの支援技術 <実技演習内容>（実技演習においては講師 2 名で対応） ・着脱介助 着脱健康原則の理解 ① パジャマの着脱（椅子上、ベッド上臥床） ② 寝巻きの着脱（ベッド上臥床） ・全身清拭 ベッド上での全身清拭とケリーパッドでの洗髪介助 DVD 長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 介護技術解説DVD	

<p>⑦ 移動・移乗に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>10</p>	<p>10</p>		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗、移動に関する基礎知識 ・移動、移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者、介助者が共に負担の少ない移乗、移動とは ・残存機能の活用と自立支援、ボディメカニクスの基本原則 ・褥瘡予防 <p><実技演習内容> (実技演習においては講師2名で対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上移動①水平移動②上方移動③下方移動) ・ベッド上体位変換①仰臥位⇒側臥位②仰臥位⇒長座位③長座位⇒端座位④①～③の逆における介助 ・椅子(ベッド端座位)からの立ち上がりと座る介助 ・移乗介助①ベッド⇒車いす②車いす⇒ベッド 自立を促す移乗介助と全介助の方法 ・歩行介助①麻痺設定での杖なし、杖歩行介助②白杖の使用方法和、視覚障害者の歩行介助 ・車いす、歩行器の移動介助 <p>DVD 長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 介護技術解説DVD</p>
<p>⑧ 食事に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6</p>	<p>6</p>		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識(食事の意味、咀嚼と嚥下、脱水について、低栄養について) ・食事環境の整備、食事に関した自助具等の活用方法と食事形態、障害別介助方法とからだのしくみについて <p><実技演習内容> (実技演習においては講師2名で対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事介助、水分補給(椅子とベッド上) ・口腔ケアの実際 <p>DVD 長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 介護技術解説DVD</p>
<p>⑨ 入浴、清潔保持に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6</p>	<p>6</p>		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関する基礎知識(皮膚の生理的機能や入浴における身体への効果と負担、羞恥心への配慮等) ・清潔行動のしくみと清潔保持のための安全な援助方法 <p><実技演習内容> (実技演習においては講師2名で対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊入浴と個浴の体験入浴 ・ベッド上での手浴と足浴体験 <p>DVD 長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 介護技術解説DVD</p>
<p>⑩ 排泄に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6</p>	<p>6</p>		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識(排泄介護の意味、様々な排泄環境と福祉用具の活用方法等) ・排泄障害の理解とケアのポイント(排尿障害、排便障害) ・自立に向けたアセスメントと排泄介護 <p><実技演習内容> (実技演習においては講師2名で対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導 障害者トイレでの誘導体験 ・ポータブルトイレ誘導 ・差し込み便、尿器の使用法 ・オムツ介助の方法と陰部洗浄 <p>DVD 長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 介護技術解説DVD</p>
<p>⑪ 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4</p>	<p>4</p>		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識(睡眠とは、高齢期の特徴、安眠の支援、安楽な姿勢と体位) ・ポジショニングの必要性 ・寝具の清潔とベッドメイキングについて <p><実技演習内容> (実技演習においては講師2名で対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメイキング ・安楽な姿勢と体位、ポジショニングの実際 <p>DVD 長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 介護技術解説DVD</p>
<p>⑫ 死にゆく人に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4</p>	<p>3</p>	<p>1</p>	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアに関する基礎知識(終末期とは、高齢者の死に至る経過、臨終時の兆候と介護、介護従事者の基本的態度) ・家族ケア(グリーフケア)の重要性の理解 ・緩和ケア、トータルペインの理解 <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリザベスキューブラー・ロス著「死ぬ瞬間」からの抜粋部分を読み、その内容に関してグループで討議を行う。

⑬ 介護過程の基礎的理解	7	5	2	<講義内容> ・介護過程の基礎的理解 介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチの関係性と重要性理解
⑭ 総合生活支援技術演習	3	3		・事例による展開を行う 演習1 男性、右片麻痺、失語症の高齢者に対する演習 起居動作と排泄、着脱時における展開 演習2 女性、左片麻痺、半側空間無視の高齢者に対する演習 起居動作と排泄、着脱時における展開
(合計時間数)	75	63	12	

修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ・家事援助の機能と基本的原則について列挙できる。 ・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。
使用する機器・備品等	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

介護職員初任者研修シラバス (通信課程)

指定番号 45

商号又は名称: 学校法人 誠優学園

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を通して振り返り、この研修で学んだ知識と技術の再確認を行うとともに、就職後も継続して学習を行っていく姿勢と課題について認識ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠 (エビデンス) に基づく介護についての要点 <p>利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等</p> <p><演習内容></p> <p>自らの課題発見と他者の課題を比較し、今後の継続学習姿勢の獲得についてディスカッションを行う。</p>
② 就業への備えと研修終了後における事例	2	2		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了時における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事務所等における事例 (OFF-JT, OJT) <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョン演習 <p>DVD「実践スーパービジョン1・2」中央法規出版を觀賞後、スーパーバイザー、バイジー体験を行い、体験後のディスカッションを行う。</p>
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD)「実践スーパービジョン1・2」、DVDプレーヤー、テレビ
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。